



「ネットワークソリューション」の提供に、沖電気の存在価値がある

企業の使命は、世界の発展と幸福に寄与し、社会に貢献した結果を、株主のみならず、お客様、社員などのステークホルダーに還元することにあります。また、業界をリードする得意分野を持つ企業のみが、継続的に成長し、社会に十分な貢献をしていけるのだと考えます。

今や「変化することが当たり前」の時代になりました。グローバルなネットワークが発達したことにより、社会、経済、産業の構造や仕組みが未曾有のスピードで変化しています。他社にない強みとユニークさをもって、こうした変化に柔軟に対応していくことが、企業が成長していく上で不可欠です。

こうした中、沖電気は、情報・通信・電子デバイスの各分野において、お客様の課題を解決する「ネットワークソリューション」を提供することで、社会に貢献していきます。沖電気では、ネットワークソリューションを、「いつでも、どこでも、誰でも」欲しい情報を望む形で「安全に、確実に、適正な価格で」提供することだと定義しています。つまり、安心して利用できる高品質のネットワークにより、時間と空間を超越することを可能にし、充実したサービス/コンテンツを提供すること、これがネットワークソリューションの基本思想です。

ネットワークソリューションを実現する3つのキーワード 「情報・通信の融合」「パーソナル&モバイル」「セキュリティ」

ネットワークソリューションの実現には「情報・通信の融合」「パーソナル&モバイル」「セキュリティ」の3つがキーワードになります。ブロードバンドネットワークの進展で、情報分野と通信分野の境が消滅し融合されつつあります。こうした変化に対応して、沖電気が得意とする技術や業種アプリケーションを共通プラットフォーム化し、アプリケーション・プラットフォーム「AP@PLAT™」として体系化しました。今後これが情報・通信融合のコアとなっていくものと確信しています。

また、パーソナル&モバイルを実現する鍵として、超低消費電力LSI(Large-scale Integration)を可能にするプロセス技術/設計技術に取り組んでおり、この技術を活用した無線機能搭載LSIの開発・商品化を進めています。一方、セキュリティ分野では、人間の目の虹彩を使って個人認識をするシステム(アイリス認証システム)のほか、電子決済や電子透かしなどで強みを持っています。



「フェニックス21飛翔」で、変化に柔軟に対応する事業構造を構築

沖電気では、2002年度より中期経営計画「フェニックス21飛翔」に基づく経営改革を進めてきました。

世界経済が縮小傾向で厳しい経営環境下にある現在、沖電気は、売上高より先むしろ利益を重視した経営を推進しています。利益を最大化するため、必要な経営資源をすべて社内に抱えるのではなく、他社や関連企業と提携することで、環境

変化に対応できる柔軟な事業構造をつくる。これが「フェニックス21飛翔」の狙いのひとつです。

しかし、コスト低減だけでは利益を増やすことはできません。企業として継続的に繁栄するためには、常に新商品や新技術の開発に挑戦して新しい市場を開拓し、売上拡大を目指さなければなりません。

そのため、中期経営計画の施策の一環として、成長が期待される分野への経営資源の集中を進めてきました。その主眼となるのは、従来型のネットワークシステムからIP (Internet Protocol) ネットワークへのシフト、ソフトウェアサービスの強化、システムLSIの強化などです。

具体的には、通信事業では、既存の通信システム事業から成長分野であるIPネットワーク事業を分離し、IPコミュニケーションシステムに特化する「IPソリューションカンパニー」を新設、技術や人材を含めた大幅な経営資源の集中を図りました。

電子デバイス事業では、設計・開発と生産の機能を別々の社内カンパニーとして分離しました。「シリコンソリューションカンパニー」は、社外の先端生産ラインを有効活用して、高付加価値商品に注力したシステムLSI事業に専念します。一方、「シリコンマニュファクチャリングカンパニー」は、低消費電力、小型化など特長ある技術をベースに、少量多品種の生産を手がけます。自社工場の生産能力に設計が制約されない「ファブフリー」な体制を構築したことで、各カンパニーそれぞれの強みを専門化することを目指します。

成長の期待できる事業に経営資源をシフトすることで、得意分野をさらに強化すると同時に、これら成長分野の商品を、急速に拡大する中国市場をはじめ、ワールドワイドに展開していく計画です。



ネットワーク型カンパニー経営により機動力で進化

沖電気では、成長分野に経営資源を集中し、かつ各分野の事業を有機的に連携させることで、変化に迅速に対応する経営を目指す「ネットワーク型カンパニー経営」という独自の経営スタイルを推進しています。必要な事業を環境の変化に応じてプラグイン・プラグアウト的に展開していく、柔軟で機動力のある経営スタイルです。現在、開発から営業、財務まで

独立して事業を推進する社内カンパニーが9社、成長分野の開発に特化する社内ベンチャーカンパニーは5社となっています。

また、ネットワーク型カンパニー経営のバックボーンにあるのは、いかに社会に貢献していくかということです。社会と調和しながら成長していくために、地球環境に配慮した環境経営を重視しています。そして、企業市民として、地域社会に貢献する活動にグループをあげて取り組んでいることは言うまでもありません。

一方、執行役員制度、各種諮問委員会、社外役員など、コーポレートガバナンスを強化する様々な手法も取り入れています。さらに、企業としての情報開示やアカウントビリティを十分に履行し、経営の透明性の強化に努めています。

企業の継続的な成長には、人材の育成も不可欠です。2001年度からは、30代後半から40代前半の幹部候補生を選抜してエリート教育を行う社長塾「フェニックス・フォーラム」を開始しています。変化の時代を勝ち抜くことのできる次のリーダーを育てる教育制度として、継続して推進していきます。

厳しい経営環境の中、沖電気は、変化に柔軟に対応できる事業構造の確立を進めてきました。今後モネットワークソリューションを実現することで、「安心」を提供する企業として、さらなる成長を目指し、果敢に挑戦を続けてまいります。